

#6 Team LeMans Audi R8 LMS

Yoshiaki Katayama

Roberto Merhi Muntan

Shintaro Kawabata



大会概要

2022年 SUPER GTシリーズ 第2戦

大会名称

2022 AUTOBACS SUPER GT Round2 FAV HOTEL FUJI GT 450km RACE

開催日時

5月3日 火曜・祝日（予選） 5月4日 水曜・祝日（決勝）

開催サーキット

富士スピードウェイ（1周：4.563km）

所在地：静岡県駿東郡小山町中日向694

同時開催レース

2022 FIA-F4選手権 第1戦・第2戦

Porsche Carrera Cup Japan 2022 第3戦・第4戦

主催

株式会社GTアソシエーション／富士スピードウェイ株式会社／FISCOクラブ（FISCO-C）

公認

国際自動車連盟（FIA）

一般社団法人 日本自動車連盟（JAF）

認定

株式会社GTアソシエーション

後援

静岡県小山町／御殿場市／裾野市／公益社団法人 静岡県観光協会／小山町観光協会／

一般社団法人 御殿場市観光協会／一般社団法人 裾野市観光協会／テレビ静岡



◆ 参戦体制

■ ドライバー



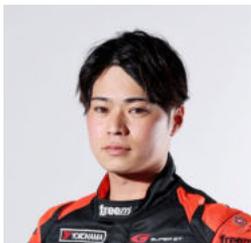
片山 義章
YOSHIAKI KATAYAMA

生年月日 1993年11月13日
出身地 愛知県
身長 168cm
体重 69.3kg
血液型 RH+O



ロベルト メルヒ ムンタン
ROBERTO MERHI MUNTAN

生年月日 1991年3月22日
出身地 スペイン
身長 178cm
体重 70kg
血液型 RH+O



川端 伸太郎
SHINTARO KAWABATA

生年月日 1992年9月14日
出身地 愛知県
身長 171cm
体重 65kg
血液型 RH+A

■ 監督



小倉 啓悟
KEIGO OGURA

■ スタッフ

チーフエンジニア 近藤 良一
チーフメカニック 田村 貴史

■ スポンサー

ザーレン・コーポレーション株式会社	株式会社デジテックエイチピー
TONE株式会社	コスモ開発株式会社
ニチアス株式会社	ウエスタンデジタルジャパン株式会社
エバー株式会社	医療法人さくら耳鼻咽喉科
カトー機械株式会社	ARMS株式会社
城東電機株式会社	ブランデューズ株式会社
青山エレベーター株式会社	株式会社PACIFIC RACING TEAM
株式会社ジョイフル設備	B.R.M / Viron Japan 株式会社
岡田金属株式会社	



◆ 予 選

天候・・・晴れ

コース状況・・・ドライ

気温・・・16℃ (GT300クラスQ1開始時)

路面温度・・・23℃ (GT300クラスQ1開始時)

予選開始・・・15時00分 (GT300クラスQ1-A組開始)



Team LeMansは、この第2戦から新たな体制でSUPER GT GT300クラスに参戦する。チーム名を「Team LeMans」とするとともに、片山義章をAドライバーとして引き続き起用。BドライバーにF1参戦経験のあるスペイン人のロベルト・メルヒ・ムンタンを、そして、この富士ではCドライバーとして、昨シーズンまでSUPER GT GT300クラスにAudi R8 LMSで参戦していた川端伸太郎を迎え、450kmの長丁場に臨む。

GT300クラスでは、全戦でA、Bの2組に分かれてそれぞれ10分間のQ1を行い、各組の上位8台がQ2に進出する。富士スピードウェイで行われる第2戦には28台が参加し、#6 Team LeMans Audi R8 LMSはA組でQ1に挑み、まずは2戦連続のQ2進出を目指す。

#6 TeamLeMans Audi R8 LMS

予選結果：18位 (予選Q1ベストタイム：1分36秒336=川端選手)

五月晴れに恵まれた富士スピードウェイでは、予選当日の午前中に公式練習が行われ、SUPER GT初参戦となるメルヒがルーキーテストを兼ねてまず走行し、無事に参加資格を得る。続いて川端と片山がセットアップの確認を行い、95分のセッションは慌ただしく終わりを迎えた。

そして、15時から公式予選がスタート。Audi R8 LMSにとって長いストレートが不利に働く富士スピードウェイでは厳しい戦いが予想されるが、まずは川端がQ1突破を目指してQ1 A組に挑む。川端は計測4周目に1分36秒500をマークし9番手につけ、さらに次の周回で自己ベストを更新する1分36秒336を叩き出す。しかし、トップから12位までが約1秒差という激戦のなかで、Q2進出ラインの8位にわずかにコンマ0.21秒及ばず、惜しくもQ1突破を逃した。



◆ 決 勝

天候・・・晴れ コース状況・・・ドライ 気温・・・20℃（スタート時） 路面温度・・・33℃（スタート時）
 決勝レース開始・・・14時30分 レース予定周回数・・・100周（約450km）

#6 Team LeMans Audi R8 LMS（片山選手&メルヒ選手&川端選手）

決勝結果：14位（所要時間：3時間46分40秒758=58周消化／ベストラップ：1分37秒707=川端選手）

前日同様、好天に恵まれた富士スピードウェイでは、4万4000人のファンが見守るなか、14時30分から決勝レースが行われた。450kmの長距離レースとなる第2戦は、2回の給油が義務づけられるとともに、ひとりのドライバーの周回数が3分の2を超えてはならないというルールが設けられる。これに対し、Team LeMansは2度のピットストップで給油とタイヤ交換、ドライバー交替を行う作戦を採った。

初参加のメルヒにさまざまな経験を積ませたいチームは、彼を第1ドライバーに据えることに。2周のフォーメーションラップののちに戦いの火蓋が切られたレースは、1周目にポジションを21位に落としたものの、2周目には20位にポジションを上げ、その後、9周目以降は上位勢に迫る1分38秒のラップタイムをコンスタントに刻みながら、周回を重ねていく。

レース予定周回数の3分の1を超えた35周を終えたところで、メルヒがピットへと戻った。そして、給油およびタイヤ4本交換を行い、第2ドライバーの川端がコースへと向かう。川端は見かけ上の20位、1回目のピットストップを終えたマシンとしては15番手付近でコースに復帰し、ここから追い上げを見せようとした矢先にアクシデントが発生。40周目、GT300の一台がクラッシュしたことでFCYが導入され、セーフティカーランののち、46周目にはセッションが赤旗中断に。これがもとで、#6 Team LeMans Audi R8 LMSはラップダウンになってしまう。

その約25分後にはセーフティカーランによりレースが再開。セーフティカーラン解除後の50周目にチームベストの1分37秒707をマークした川端は、果敢な走りでもポジションアップを狙うが、GT300クラスのトップが55周を終えたところで、GT500のマシンがメインストレートで大クラッシュし、レースは2度目の赤旗中断に。その後、コース修復に約1時間半を要し、18時10分、セーフティカーの先導でレースは再開されるが、10分後に最大延長時間に達した決勝は、セーフティカーランのまま、予定を大幅に下回る58周でゴールを迎える。#6 Team LeMans Audi R8 LMSは再スタート時に周回遅れが解消され、トップと同一周回の14位で完走を果たした。

2度の赤旗中断と、長時間におよぶコース修復により、第3ドライバーの片山には走行の機会がなかったものの、スタート担当したメルヒが35周できたことはチームとしては大きな収穫といえる。次戦の鈴鹿はAudi R8 LMSが得意とするテクニカルコースだけに、チーム一丸となってQ1突破と上位入賞を目指す。



片山 義章 選手のコメント

今回は元F1ドライバーのメルヒ選手と、アウディの経験豊富な川端選手の3人で挑戦することになりました。マシンのセットアップは良い感じに仕上がりと、予選に挑みましたが、ライバルたちも速く、川端選手がQ1を担当したものの、Q2進出はできませんでした。決勝はメルヒ選手がスタートを担当し、SUPER GTにまだ慣れていないにもかかわらず、さすがのドライビングと対応力で、素晴らしい走りを見せてくれました。川端選手に交替してからは、まわりでクラッシュが続いてしまい、残念ながら僕が乗る番が回ってこなかったのですが、次回に期待できるレースができたのではないかと思います。次の鈴鹿も優勝を目指しますので、応援よろしくをお願いします！

ロベルト・メルヒ・ムンタン選手のコメント

自分にとって初めてのことばかりのSUPER GTでしたが、フリー走行から決勝レースまで、大きなトラブルなく走り終わられたことで満足しています。スタートドライバーを任されて、アクシデントにあわないよう慎重に行ったつもりですが、前の車のブレーキングポイントが早過ぎたのが原因で、ちょっと接触もあったりしました。でも混乱をうまく避け、集団の中でペースをつかんだあとは、1台、また1台とライバルたちをオーバーテイクすることができました。できるかぎり長く走り続けてドライバー交代したのですが、マシンの信頼性は100%でしたし、タイヤも燃費も問題はありませんでした。ハイスピードで自分をオーバーテイクしていくGT500のマシンが後方から来るのはちょっと気をつかったけど、その対応にも慣れてきたし、自分も耐久レースの経験は豊富だから特に問題はなかったです。SUPER GTのレースはとても素晴らしいですし、このレースに招聘してくれたTeam LeMansにとっても感謝しています。

川端 伸太郎 選手のコメント

ここ富士スピードウェイは、前戦の岡山とは異なるマシンのセットアップが必要でした。ドライバー3名で臨んだ今回は練習走行の時間が足りませんでした。そんな条件下でも良いセッティングができたと考えています。まずはQ1突破を目指して臨んだ予選は、想像以上の接戦でQ2進出ができなかったのが心残りです。一方、マシンのセットアップに関してはチームの力になりました。今後も何らかのかたちでチームに協力していきたいと思っています。



小倉 啓悟 監督のコメント

今回の富士はチームの体制が変わり、ロベルト選手もはじめてのSUPER GTということで、一からチームづくりを始めました。そんな状況だけに、第3ドライバーで参加した川端選手がセットアップで力になってくれたのは、とても助かりました。ロベルト選手も、35周とたくさんのラップを重ねられたことで、次戦に向けて大きな収穫となりました。次の鈴鹿は片山選手とロベルト選手で戦いますが、ふたりとも鈴鹿の経験がありますので、練習走行からしっかりと走り込み、また今回得られたデータをきっちりと分析するなどして、良い結果を残したいと思います。

